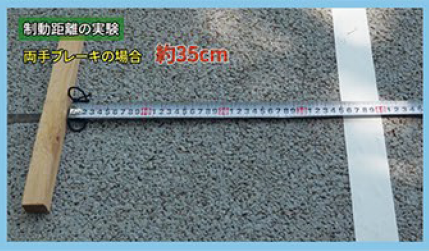
交通安全教育 DVD

監修　愛知工科大学 名誉教授 博士 小塚一宏
一般財団法人 日本交通安全教育普及協会

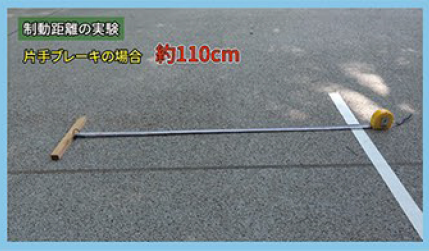
中学生以上・一般向け／約１７分／字幕版同時収録

# 自転車の「ながらスマホ」危険の原因を探る

## 取り締まり強化 青切符導入




制動距離の実験







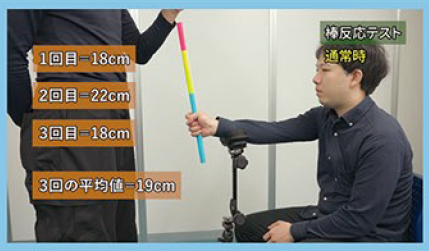
走行安定性の実験






アイマークカメラの実験






棒反応テスト














## 企画意図

自転車は子どもからお年寄りまで幅広い方たちの移動手段として、日常生活に欠かすことのできないものとなっています。一方で利用する際のハードルが低く、だれでも利用できる便利さが、自転車事故の危険に対する認識の甘さや、知識の不十分さにつながっている現状があります。

全交通事故に占める自転車関連事故の割合は近年増加傾向にあります。特に若い世代の自転車運転中の「ながらスマホ」による事故で、歩行者に深刻な被害が生じるケースも多く発生しており、一刻も早く解決されるべき社会課題となっています。自転車運転中の「ながらスマホ」は、加害者にも被害者にもなる可能性があり、その危険性を自分事として捉えることが、課題解決への第一歩であると考えます。

この作品では、令和 8 年 4 月 1 日からの自転車の交通反則通告制度（青切符）の導入をうけて、制度の変更点を周知し、「ながらスマホ」の危険性を検証します。自転車を利用される方たちがその危険性を改めて認識し、当事者意識を持っていただくよう訴えます。

交通安全教育 DVD

中学生以上・一般向け
約 17 分

# 自転車の「ながらスマホ」危険の原因を探る
## 取り締まり強化 青切符導入

■自転車事故の実態

自転車による交通違反検挙件数は増え続けてきた。特に、自転車運転中にスマートフォンを使用する「ながらスマホ」による重大事故は、スマートフォンの普及を背景に、急速に増加している。スマートフォンを操作しながらの運転はなぜ危険なのか、複数の実験から探っていく。

### 制動距離の実験

スマートフォンを手に持つことで片手運転になるため、前輪または後輪だけのブレーキ操作となり、制動力が不十分になる。制動距離がのびることで、人や物への衝突事故につながるリスクが高まる。

### 走行安定性の実験

通常の運転では障害物のあいだをスムーズに通ることができる。ゲーム画面を見ながらの運転では、走行が不安定となり、障害物に接触する場面も見られた。

### アイマークカメラの実験

＜視覚への影響＞

被験者にアイマークカメラを着けた状態でテストコースを走ってもらい、運転中の視線の動きを比較する。通常の走行時は、歩行者、駐車車両、信号機など、前方と左右の広い範囲にわたって、休みなく視線が向けられている。「ながらスマホ」の運転では、アイポイントがスマートフォン周辺に偏り、視野全体への動きが少なくなっている。

＜通話による影響＞

スマートフォンの画面を見ずに通話をする場合についても、通常の場合と比べ、アイポイントは中央付近に偏り、周囲への視線移動が少なくなっている。つまり、通話の場合においても、視野からの情報が脳に伝わらず、見えていないのと同じ状態が生じていると言える。

### 棒反応テスト

棒の落下に対する反応速度から注意力の状態を測定すると、通常時に比べ「ながらスマホ」では反応の遅れが目立った。実際の交通場面では、回避行動が遅れ、ハンドルやブレーキ操作のミスにもつながり、事故の危険性が高まる。

■自転車保険等加入のすすめ

自転車による歩行者との接触事故では、状況や被害の大きさによって、高額な賠償金の支払いが命じられることがある。自分だけではなく、大切な家族のためにも、保険への加入が必要だ。

■「青切符」導入

自転車は法令で「軽車両」と定められており、自動車やバイクなどと同じ車両の仲間。令和８年４月１日に改正された道路交通法では、これまで車やバイクに適用されてきた「青切符」が、16 歳以上を対象に、自転車の違反行為に対しても適用されることになった。携帯電話やスマートフォンの使用は 12,000 円という高額な反則金が設定されている。この違反がもたらす危険の大きさが考慮された結果と言える。

■加害者や被害者にならないために

自転車を安全に運転するため、常に自転車安全利用五則の実践を心がけてほしい。自転車運転中に、「つい」「うっかり」スマートフォンを手にする数秒が、取り返しのつかない大事故につながることを忘れてはならない。自転車は時として、加害者にも被害者にもなる危険な乗り物。日頃から、交通ルールとマナーをしっかり守って運転することを心がける必要がある。

| | |
|---|---|
| ■ライブラリー価格 | 本体￥70,000（税込￥77,000） |
| ■学校価格（中学校・高校のみ） | 本体￥35,000（税込￥38,500） |


監修　愛知工科大学 名誉教授 博士 小塚一宏
一般財団法人 日本交通安全教育普及協会
企画・制作統括　髙木裕己　演出・撮影　髙橋哲也
撮影　森一晃　助監督　山口清威
協力　愛知県公安委員会指定 豊田自動車学校

制作・著作　株式会社 映学社
■DVD［カラー］※字幕版も収録されています
■2026年・映学社作品



○ 株式会社映学社が製作する映像、DVD、ロゴ、イラスト、チラシ、ウェブサイト等全ての著作物の著作権は、映学社もしくは関係権利者等の著作権者に帰属しています。これらの著作物を権利者の許諾を得ずに、複製、転載、改変、譲渡、配布、公衆送信（送信可能化を含む）、放映等に利用することは原則として法律により厳しく禁止されています。
○ 本チラシで紹介しているDVDは、DVDビデオディスクです。CD-ROMプレイヤーではご覧になれません。必ず市販のDVDビデオプレイヤーでご覧下さい。
なおDVDビデオは、映像と音声を高密度に記録したディスクです。詳しい再生上の取扱いについては、ご使用になるプレイヤー、テレビなどの取扱説明書をご覧ください。



●お問い合せ、お申し込みは…

(株)オプチカル 販売課 教育映像係
〒761-0113　香川県高松市屋島西町 ２４８４-８
TEL 087-841-1100　FAX 087-841-1101
https://www.optical.jp　E-mail：info@optical.jp